

第63回前島密賞 受賞者 功績概要

◎ 敬称略・年齢は平成30年4月10日現在

推薦機関	氏名 (年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
	タケヤマ ヨシオ 武山 芳夫 (64歳)	東京都	(一社)日本経済団体連合会 情報通信委員会企画部会長 第一生命情報システム㈱ 代表取締役会長		【インターネットの健全な発展のための国際的な政策・規制枠組みの実現に向けた産業界からの貢献】 インターネット上で国境を越えて流通するデータについては、セキュリティの確保や個人情報の保護を考慮しつつ、その自由な流通・利活用を促進するための国際的な政策・規制枠組みを構築することが求められています。 武山氏は、(一社)日本経済団体連合会(経団連)の情報通信委員会企画部会長として「インターネットエコノミーに関する日米政策協力対話」の民間作業部会や日EU・ICT戦略ワークショップ等の2国・地域間の枠組み、更にはG7におけるマルチステークホルダー会合への経団連としての積極的な関与等の活動を通じ、各国における情報通信分野の政策及びビジネス環境に関する情報の共有等、官民間の情報共有・意見交換の促進に尽力されるとともに、各国の関係者との間で積極的な議論を行うことで、情報通信分野の発展に資する国際的な意見形成に貢献されました。	
	ホソカワ ミスヒコ 細川 瑞彦 (59歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事	科学技術分野の文部科学 大臣表彰 科学技術賞 開発部門「正確さと信頼 性を高めた標準時シス テムの開発」 H25	【標準時および周波数標準に関する研究開発】 高精度な時間/周波数標準技術は、現代のICT社会を支える最先端基盤技術です。細川氏は、日本における時間/周波数標準機関の研究リーダーとして、日本標準時の発生・供給業務の着実な遂行と、原子時計および関連技術の研究開発を牽引されました。特に、研究者とともにCs一次周波数標準器の開発を進め、世界の標準時のもととなる国際原子時計構築に参加資格を持つ機種を実現されました。さらに、次世代の原子時計と目される光周波数標準器の重要性にいち早く着目し、研究開発体制の確立と育成に尽力されました。その結果、秒の再定義の最有力候補であるSr光格子時計において開発機の計測値が国際委員会で採択され、国際標準値確立に大きく貢献する成果が達成されました。	
総務省	イノウエ ダイスケ 井上 大介 (43歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 室長	内閣府 第14回産学官連 携功労者表彰 H28 他3件	【サイバー攻撃統合プラットフォームの研究開発と社会展開】 マルウェアにより重要情報を収奪等する「標的型サイバー攻撃」に対しては、マルウェアが日々進化している現状では単一のセキュリティ機器だけで網羅的に検出することは困難になっています。このため、組織内ネットワークを流れるトラフィックをリアルタイムに観測・分析を行うと共に、複数のセキュリティ機器からの大量のアラート情報をほぼリアルタイムで集約・分析を行い、それらの情報を3次元可視化表示することで迅速な対策の優先度付けと自動防御の実施を可能とする世界初のシステム「サイバー攻撃統合プラットフォーム」を開発されました。	
	スズキ ヨウエイ 鈴木 宏栄 (39歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 主任研究技術員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28	◎井上氏は、 サイバー攻撃統合プラットフォームのコンセプト立案から研究開発の総指揮に当たるとともに、3次元実時間可視化のデザインを手がけ、テキストログしか分析手段がなかったセキュリティインシデント対応において、逸早く実時間3次元可視化技術を適用したサイバー攻撃観測・分析・対処技術を立ち上げ、複数セキュリティ機器との連携・統合技術も融合させて開発を進め、社会展開を主導されました。 ◎鈴木氏は、 OpenGLという非常にプリミティブな3Dグラフィクス・ライブラリと、三角関数や軌道計算等を自在に操る世界唯一の実装力によりシステムの基盤となっているセキュリティ観測機構(センサ/ゲート)の設計・実装を行い、24時間365日“絶対に止まらないシステム”の実現に不可欠な貢献をされました。	
	ツダ ユウ 津田 侑 (33歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 有期研究員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28	◎津田氏は、 セキュリティオペレーションの最終段となる集約した異種アラートに対する相関分析機能、自動防御システムの研究開発及び実装に不可欠な貢献をされました。さまざまなメーカーの対策実行機器(アクチュエータ)へ確実かつ迅速に制御命令をだし動作させる技術は「プラットフォーム」としての当システムの根幹となっています。 ◎高木氏は、 観測データを蓄積する超高速・大規模データベース(DB)の設計・開発を担っており、アラート集約機能の要であるアラートDBの設計・開発、実時間でのセキュリティインシデント情報の収集及びデータベースへの書き込みに必須の貢献をされました。ピーク時十数万PPS(パケット毎秒)の超高速書き込み性能を有するDBは世界的にも稀有です。	
	タカギ ヤイチロウ 高木 彌一郎 (50歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 有期研究技術員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28		

推薦 機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
日本 郵政 （株）	ヒラタ ヨシミツ 平田 好光 (66歳)	北海道	(元) (北海道) 栗山郵便 局長 (元) 全国郵便局長会理事	郵政グループ表彰 (事業優績) H28 他4件	【郵便局長及び郵便局長会役員等として郵政事業及び地域の発展に貢献】 昭和45年6月、郵政省に採用され、平成29年3月、栗山郵便局長を最後に退職されるまで、46年有余の長きにわたり、一心不乱に職務を全うされ、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 主幹地区統括局長及び北海道南空知地区統括局長在任中には、連絡会内の部会長を対象とした研修を実施し、部会ごとの損益管理の徹底や営業及び接客に関する勉強会を積極的にを行うよう指示し、社員が一丸となって業績向上に取り組む体制づくりに努めました。また、北海道管内の営業推進の向上のために、強い責任感と行動力をもって、郵便局長はもとより役職者との対話を積極的に行い、業績向上に多大な実績を挙げられました。 さらに、全国郵便局長会理事等として、郵便局が「トータル生活サポート企業」として、お客さまや地域・社会に貢献するネットワークへ発展していくことを目指し、全国の郵便局をまとめてこられました。	
	オオワダ ケン 大和田 賢 (70歳)	埼玉県	(元) 郵便事業(株) 神田支店長	総裁表彰 (事業優績) H18	【東京支社幹部及び神田支店長等を歴任し、郵政事業の発展に貢献】 昭和41年3月、郵政省に採用され、平成20年3月、郵便事業株式会社神田支店長を最後に退職されるまで、42年有余の長きにわたり職務に精励され、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 東京支社企画部長等在任中、共通部門は現業部門を支える立場であることを常に念頭に置き、効率的な業務の推進を図るとともに良好な労使関係の構築に尽力されました。 郵便局長就任後は、現業部門の最前線の最高責任者として郵便業務の正常運行を確保するとともに、郵便貯金、保険年金についても各種施策を活発に講じて周知、宣伝活動を行うほか、事故犯罪の防止にも意を注ぎ、積極的に防犯会議を開催する等、業務の円滑な運行に努められました。また、職員との対話を積極的に行い、対話から得られた情報をもとに、お客さまのニーズに沿ったサービスの提供を心がけ、喜ばれる郵便局づくりに尽力されました。	
	サカモト ヨシサダ 坂本 義定 (69歳)	愛媛県	(元) 郵便事業(株) 松山支店長	総裁表彰 (事業優績) H19	【四国支社幹部及び松山支店長等を歴任し、郵政事業の発展に貢献】 昭和42年7月、郵政省に採用され、平成21年3月、郵便事業株式会社松山支店長を最後に退職されるまで、41年有余の長きにわたり職務に精励され、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 高松南郵便局郵便課長在任中は、四国の先陣を切って年賀業務運行の改善に取り組み、地域区分局における年賀業務運行パターンを確立し、元旦配達年賀郵便物数の増加等、作業能率の向上と経費削減において顕著な効果を挙げられました。その取り組みは、管内の他の地域区分局にも導入され、事業の基盤強化に大きく寄与しました。 四国支社郵便事業部長在任中は、小包郵便物や書留郵便物等の配達率向上及び返還郵便物減少に取り組み、各郵便局に「自局の返還率状況の毎週確認と周知」、「再配コール記録票の統一」、「指定場所配達への奨励」等を指示して管内の留置期間超過返還率を低減させ、品質向上及び経費削減を同時に成し遂げるなど、生産性の向上に尽力されました。	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
日本電信電話（株）	ミタ キヨシ 三田 清 (74歳)	東京都	(元) 日本電信電話(株) 常務取締役企画室長 (元) エヌ・ティ・ティ都市開発(株) 代表取締役社長	第53回 電気通信協会賞 H24	【電気通信事業の公正競争促進等による情報通信産業の健全な発展と国民生活の利便性向上への貢献】 民営化の前年より広報部オレンジセンター（お客様相談センター）所長を務め、民営化に先駆け、お客様の声を事業運営へ取り入れ、サービスの改善に活かす取り組みを展開されました。民営化とともに電気通信事業の分野に新規事業者の参入が始まる中、平成元年に営業企画部長に就任して以降は、市場の育成と公正競争の促進に尽力されました。平成3年には「公正競争に関するN T Tの基本的考え方および行動指針」の制定にかかわり、通信サービスの公正で健全な競争の促進と電気通信事業全体の発展に大きく貢献されました。平成5年には、20年以上にわたって据え置かれていた公衆電話通話料や加入電話基本料の改定を実施するとともに長距離通話料の値下げを行う等通話料のバランス改善も実施し、適正な料金体系と料金の低廉化を実現されました。平成7年に取締役就任、当時は、N T Tの再編議論の真っ只中であり、関係機関との議論を重ね、平成11年の新生N T T発足の実現に大きく貢献されました。	
	ナカムラ ケン 中村 健 (45歳)	東京都	日本電信電話(株) メディアインテリジェンス 研究所 主任研究員	業績賞（電子情報通信学 会） H29	【H.265映像符号化LSI “NARA” および符号化装置の開発と実用化への貢献】 最新の映像符号化標準H.265を用い、従来のTV放送の4倍の圧縮率向上と放送プロ向けの高画質と超低遅延とを同時に満足するH.265映像符号化LSI “NARA” 及び符号化装置を世界で初めて開発することに成功されました。放送プロ用途で用いられる仕様にも対応したNARAの高画質・超低遅延は、国内外で広く認められている。NARAおよびそれを搭載した装置は、すでに放送局の素材伝送システムで利用されているほか、4K IPTVサービスやスポーツイベントの4K伝送等、幅広くグローバルに展開されています。さらに、我が国が世界に先駆けて8K試験放送を開始することを可能としました。 ◎中村氏は、 放送プロ用途の高水準の画質、さらに4K・8Kといった超高精細映像において高臨場感を実現するハードウェアに最適したH.265映像符号化アルゴリズムの導出という課題に対して、統計的な情報に基づく適応的なアルゴリズムを考案されました。これにより、H.265の演算量を大幅に削減するとともに、符号化性能を十分に引き出すことに成功し、高画質・高圧縮の映像サービスの実現に貢献されました。 ◎大西氏は、 H.265の膨大な演算量等を1チップに集積するとともに効率的に処理するためのメモリ構成を実現するため、H.265の処理単位の1つのサイズから他のサイズの処理結果を導出可能な構成法を考案されました。また、段階的に符号化予測モードを絞り込んでいくための多段パイプライン構成を導出するとともに、各パイプライン・ステージに効率的に映像データを供給するための高速映像分配メモリ・アーキテクチャを提案し、LSIに集積化するのに成功されました。 ◎新田氏は、 1チップでの処理性能限界を超える8K映像符号化に対して、8K映像符号化の処理分割について、放送に最も適している空間分割手法を提案し、放送規格（ARIB）での標準化を実現されました。さらに本手法の実用化に向けて、チップ間の制御情報やデータ転送等の手法や構成法を導出し、マルチチップ並列符号化制御技術として確立しました。また、本技術を装置に実装することで8K試験放送の開始の実現に貢献されました。	
	オオニシ タカユキ 大西 隆之 (43歳)	東京都	日本電信電話(株) メディアインテリジェンス 研究所 主任研究員	業績賞（電子情報通信学 会） H29		
	ニッタ ヨシウ 新田 高庸 (47歳)	東京都	日本電信電話(株) デバイスイノベーションセ ンタ 主幹研究員	業績賞（電子情報通信学 会） H29		

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
日本電信電話(株)	カワハラ トシロウ 河原 敏朗 (51歳)	神奈川県	(株)NTTドコモ 無線アクセス開発部 担当部長	第28回電波功績賞 総務大臣表彰 H29 他2件	【FDD方式とのCA（キャリアアグリゲーション）を実現した3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化】 モバイル通信の大容量化および高速化への継続的な需要拡大に対し、新規に割り当てられた3.5GHz帯TDDバンドを効率的に導入・展開することを目的に、既存のFDDバンドと高度な連携を可能とするTDD-FDD CAの標準化を実現し、3.5GHz帯TDD方式とFDD方式のCAによる日本初のサービスとして実用化されました。さらに無線ベースバンド部と無線部の間において、光デジタル信号を分配するフロントホール分配装置を実用化し、これによりCAによる高速化に加え、通信が混雑するエリアへのスモールセルの配置による効果的な大容量化と、スモールセルを効率的で早期に展開することを可能としました。 ◎河原氏は、 ベースバンド基地局信号を複数の無線局に分配することによる経済的かつ効率的なエリア展開法を考案するとともに、TDD-FDD CA対応等主要な技術仕様を含む全装置仕様の策定を主導し、基地局装置開発に貢献しました。3.5GHz帯TDDと既存FDDのCAを実現する高速通信サービスの提供により無線容量の拡大と効率的なエリア展開を同時に実現することでモバイルネットワークの発展に貢献されました。 ◎古川氏は、 3GPPにおけるTDD-FDD CA方式、ならびに3.5GHz帯TD-LTE方式対応技術規格の早期策定に向け、国際標準化団体3GPPへ寄書入力を主導するなど積極的な寄与を行い早期仕様に貢献、3.5GHz帯TDDと既存FDDのCAを実現する高速通信サービスの提供により無線容量の拡大と効率的なエリア展開を同時に実現することでモバイルネットワークの進歩発展に貢献されました。 ◎橋本氏は、 これまでのモバイル端末開発の経験を踏まえ、国際標準化の3GPP仕様に沿った商用移動機の仕様確定や3GPP仕様どおりにチップセットが動作するかをベンダと確認する相互接続性試験を実施しました。結果として3.5GHz帯に対応した移動機の品質向上と他オペレータに先駆けた商用端末発売を実現しました。環境に応じたスループットの向上を実現することでモバイルネットワークの進歩発展に貢献されました。	
	フルカワ ケンジ 古川 憲志 (53歳)	東京都	(株)NTTドコモ ネットワーク部 担当部長	日本ITU協会賞 功績賞 H27 他1件		
	ハンモト ケンジ 橋本 研司 (49歳)	東京都	(株)NTTドコモ 移動機開発部 担当部長	(株)NTTドコモ移動機開発部 部長表彰 H22		
日本放送協会	サクライ ヨウコ 桜井 洋子 (66歳)	東京都	(元)日本放送協会 アナウンス室 エグゼクティブ アナウンサー	日本放送協会 特別表彰 (現：会長賞) 団体 H14 他2件	【女性の報道キャスターの草分け】 昭和50年にアナウンサーとして日本放送協会に入局し、放送現場の第一線に「現役で」立ち続け、報道番組から教養・福祉番組を担当されました。昭和59年にNHK女性アナウンサーとしては初めて気象庁記者クラブに所属し、NHKニュースワイドの気象コーナーを担当しました。独自に取材・情報収集し、定時の発表だけではなくニュース性の高い「気象コーナー」にしたと評価されました。その後も取材経験を積み、それまでは男性とペアで放送していた「7時のニュース」（土・日）のキャスターを、平成元年4月から単独で担当することになり、後進に大きく道を拓きました。ナレーションの分野でも、NHKを代表する番組を担当し、ニュースの顔とは別の親しみやすい声で番組を支えました。「大げさではない、サラリとした語り」は、「語り」のあり方のひとつの方向性を示したものです。平成16年の「新潟中越地震」では、地震関連の特番を担当し、ふるさとの復旧・復興につながる報道を続けました。また、NHKが制作してきた過去の番組や映像資料を次世代に伝えるアーカイブ番組を平成20年から8年間担当するなど、放送文化の向上にも多大な貢献をされました。	
	オオタケ コウ 大竹 剛 (42歳)	東京都	日本放送協会 放送技術研究所 ネットサービス基盤研究部	電気通信普及財団 テレコムシステム技術賞（奨励賞） H28 他2件	【安心・安全なパーソナルデータ活用のためのプライバシー保護システムの開発】 個々人の趣味・嗜好が多様化する今日、ネットワークを利用した個人向けサービスの重要度が増えています。個人向けサービスを実現するためにはパーソナルデータを取得する必要がある一方、プライバシー保護の問題も生じることから、パーソナルデータの一つである番組の視聴履歴を保護しつつ、他のサービスに利用する方法を考案されました。パーソナルデータを活用するサービス事業者を属性により区別し、ある属性を持つ事業者のみデータを閲覧できるようにユーザ自身が制御できる「属性ベース暗号」と呼ばれる暗号方式を用いたプライバシー保護システムを開発し、テレビやタブレットPCのような低性能なユーザ端末であっても不自由なく動作する方式も開発されました。さらにシステムの安全性を高めるため、ユーザが許可したサービス事業者に限り、暗号化したままパーソナルデータをキーワード検索して復号・閲覧できる暗号方式に改良し、プライバシー保護システムに適用されました。検索によって必要最小限のデータのみ事業者に提供されるため、データ漏洩のリスクが低く、事業者は効率的なデータ分析を行うことができるようになり、安全・安心なサービスの発展に貢献されました。	

推薦機関	氏名（年齢）	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
(一社) 電気通信事業者協会	ツジ トモヒロ 辻 智弘 (43歳)	埼玉県	(株)KDDI総合研究所 ソフトウェアインテグレーショングループ 研究マネージャー	映像情報メディア学会「技術振興賞」進歩開発賞（研究開発部門） H28 他2件	【遠隔作業支援システム「VistaFinder Mx」の研究開発と実用化】 通信や電気、ガスなどの社会インフラの安定供給の要となる設備運用保守現場の課題を解決するため、遠隔作業支援システム「VistaFinder Mx」を開発されました。本システムは、映像、音声及び拡張現実（AR）を利用し、運用保守現場での作業ミスを軽減したり非熟練作業者を遠隔地から支援することを可能にしました。ARによる作業指示をその場で記入しリアルタイム映像に重畳するシステムは世界初であり、人手不足に悩む運用保守現場にイノベーションをもたらしました。また、多種多様な通信回線で安定的に映像伝送することを可能にし、自然災害時や通信インフラが未整備の地域でも活用できます。 ◎辻氏は、 ARによる作業指示が作業対象物に正確に重畳されるように、対象物の認識精度と追跡精度を大幅に改善する技術の開発を主導されました。一方で、ARを含む映像の伝送に際し、利用する回線の品質を常時監視して映像符号化処理にフィードバックすることで、帯域変動だけでなく回線種別の切り替わりにも追従して最適な品質を実現するダイナミック映像符号化技術の開発も果たされました。	
	ヨネヤマ アキオ 米山 暁夫 (48歳)	埼玉県	(株)KDDI総合研究所 教育・医療ICTグループ グループリーダー	映像情報メディア学会 鈴木記念奨励賞 H17	◎米山氏は、 本システム開発の初期段階において、ポテンシャルユーザーへの地道な訴求を行ってプロトタイプによる評価を推進し、その結果を開発にフィードバックする流れを構築するとともに、自らが持つ映像符号化・映像伝送の知見を以てシステムの品質向上に貢献されました。さらに、本システムの商用化にあたり、想定利用者のニーズを徹底的に分析し、利便性の高いユーザーインターフェースの実現も果たされました。	
	オハタ ジュン 小幡 潤 (45歳)	東京都	KDDIテクノロジー(株) 事業推進部 次長	社長賞（チャレンジ賞） H28	◎小幡氏は、 本システムの利用拡大のため、多様な業界に渡り利用者にとって最適な利用方法を提案するトライアルシステムを構築して実証実験に取り組むとともに、トライアルで得られた結果を開発にフィードバックすることでシステムの安定化や品質向上に寄与されました。一方で、本システムの導入障壁を下げるクラウド化や、海外での利用を可能にするためのグローバル化を推進し、本システムの展開の場を大きく広げられました。	
	サワ ヒロヤス 澤 広泰 (47歳)	神奈川県	日本通信エンジニアリングサービス(株) 技術1部企画グループ グループリーダー		◎澤氏は、 通信インフラの保守業務を担う企業に所属し、全国規模でネットワークサービスを安定的に供給するという強い使命感のもと、通信分野における本システムの全国的な活用促進に注力されました。また、その過程で得た経験や知見を基に国内の展示会などでの啓発活動を推進し、本システムの普及に貢献されました。その対象には、交通インフラの運用保守を行う企業も含まれ、安心・安全な社会インフラの提供において大きな役割を果たされました。	
	フルヤ ノブオ 古谷 信雄 (60歳)	埼玉県	KDDI(株) ソリューション事業本部 ビジネスIoT推進本部 ビジネスIoT企画部 マネージャー	ソリューション推進本部 月間MVP H25	◎古谷氏は、 本システムを幅広い業界へ展開するため、長年従事してきた映像伝送サービスの提供に関わる知見やノウハウから、本システムの導入障壁を下げるクラウド化の仕組みを生み出し、その企画や推進、販売方法の立案に大きな役割を果たされました。さらに、本システムを広く普及させるための仕組み作りやその加速化においても大きく貢献されました。	

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功 績 概 要	備考
ITU 協会 日本 (一社) 電波 産業会	ハシモト アキラ 橋本 明 (70歳)	東京都	(株)NTTドコモ ネットワーク部 標準化カウンセラー	日本ITU協会/総務大臣賞 H28 他3件	【ITU-Rを通じた地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献】 昭和55年以來、ITU無線通信部門（ITU-R）会合へ日本代表として参加し、無線通信分野における国際標準化の第一線にて活躍するとともに、多数の議長職を務め、我が国の国際競争力の向上に大きく貢献されました。平成3年にはWP9B議長に就任し、固定業務の周波数配置等に関わる多数のITU-R勧告採択を実現して、この分野での国際標準化に貢献されました。平成9年に設立されたWP8A-WP9Bの合同会合においては、代表ラポーターとして5GHz帯無線LANに関するITU-R勧告の採択を実現するとともに、その後の世界無線通信会議（WRC-03）ではWorking Group議長として様々な利害が対立する難題を調整し、無線LANの国際的導入に関する規制の確立に貢献しました。平成19年、ITU-Rで最大のグループとなる第5研究委員会が設立されると初代議長に選任され、在任中には、LTE/LTE-Advancedに代表される第4世代携帯電話システムの無線インターフェースの詳細仕様に関するITU-R勧告採択実現により、携帯電話システムの更なる高度化を主導して、発展途上国を含む世界中の人々の生活の利便向上にも貢献しました。特に、平成27年の無線通信総会（RA-15）では、全体会議議長として重要勧告の採択に、各国の意見を纏めた功績は大きく、その手腕は高く評価されています。	
(一社) 連盟 日本 民間 放送	セキ ヨシユキ 関 祥行 (72歳)	東京都	(株)フジテレビジョン 常任顧問	電波の日 総務大臣表彰 (個人) H21 他3件	【地上テレビ放送のデジタル化など放送事業の発展に資する貢献】 昭和43年にフジテレビジョンに入社以來、技師長、執行役員常務・技術開発局長、常務取締役等の要職を歴任し、永きにわたり民間放送事業の発展に貢献されました。地上テレビ放送のデジタル化に当たっては、日本を代表する放送技術者として、民放連では地上デジタル放送特別委員会の委員を務めたほか、技術委員会、放送計画委員会の委員を歴任し、デジタル化に伴うさまざまな課題の解決に尽力されました。さらに、関係者で設立した全国地上デジタル放送推進協議会の対策部会長を務め、全国的な送信・受信対策の司令塔として活躍され、当初の予定どおりにアナログ放送を一斉停波し、世界でも類を見ない円滑な地デジ完全移行を成し遂げることであります。さらにデジタル放送におけるコンテンツ権利保護、ハイブリッドキャスト、4K・8K放送などの実現を技術面から支えるなど、日本の放送事業の発展に大きく貢献されました。	
(一社) ビス テレ 協会 コム サー	コレダ ノブヒコ 是枝 伸彦 (80歳)	東京都	(株)ミロク情報サービス 代表取締役会長	旭日小綬章 H27	【通信自由化施策の推進及び情報通信業界団体を牽引】 通信改革、データ通信の自由化等により出現した付加価値通信サービスを提供する企業等を結集する日本情報通信振興協会の設立に尽力したことをはじめ、電気通信事業法の制定過程で産業界の意見の方向を定めるのに重要な役割を果たし、通信の自由化、情報通信の振興に大いに貢献されました。また、自由化によって出現した多くの事業者をまとめ上げ、自由化環境下における電気通信サービスの健全な発展及び電気通信サービスの充実に努め、今日の情報通信の進展の礎を築きました。さらに、(一社)テレコムサービス協会副会長及び会長として、23年の長きにわたり協会の運営・発展に尽力をし、電気通信事業の普及発展に多大な貢献をしたほか、電気通信サービス向上推進協議会及びプロバイダ責任制限法ガイドライン等検討協議会の会長として、関係団体を取りまとめ、消費者保護の観点から業界内の自主基準であるガイドラインの策定・改訂を行い、ネットの利用の適正化に寄与されました。	
(一社) テレ 本 ケー 連 盟 ブル	エンヤ ケンジ 塩治 憲司 (61歳)	三重県	(株)CCJ 代表取締役社長 (株)シー・ティー・ワイ 取締役相談役	(一社)日本ケーブルテレビ 連盟及び(一社)日本CATV技 術協会/「第22回ケーブルテ レビ功労者表彰」 H22 他2件	【ケーブルテレビ事業における次世代サービス、新分野の開拓・牽引による地域及び業界発展への貢献】 昭和63年、ケーブルテレビジョン四日市(株)(現：(株)シー・ティー・ワイ、以下、CTY)設立直後に入社し、当時、四日市市内で広範に発生していた複合電波障害問題の解決に尽力されました。平成8年には、CTY初代通信事業部長として、双方向のCATV回線を利用した一般家庭向けインターネットサービスを全国で最初に提供開始されました。また、平成10年、取締役就任後は、放送のデジタル化に当たり全伝送路の広域化等の施策を完遂させ、デジアナ変換を行うことなくデジタル放送への移行を完了させました。平成27年に三重県ケーブルテレビ協議会会長就任後は、県内全8局が災害時相互支援協定を締結するなど、地域の安心・安全に関する施策を主導されました。さらに日本ケーブルテレビ連盟のケーブルID推進委員会委員長として、ケーブルIDプラットフォーム構想を推進するとともに、(一社)放送・通信連携テレビ地域情報サービスプラットフォーム普及推進機構の設立にも参画するなど、次世代サービス開発に向けた取組みを推進されています。	